

主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた One Action

～ 授業のオープン化から始まる授業改善 ～



学校全体の授業力向上を目指して

目次

1	はじめに	
1-1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善…	2
1-2	授業のオープン化から始まる授業改善……………	3
1-3	授業実践の流れ……………	4
2	授業前（準備）	
2-1	主体的・対話的で深い学びガイド……………	5
2-2	授業デザインシート……………	6
2-3	生徒用アンケート作成……………	7
2-4	参観者用アンケート作成……………	8
3	授業後（評価の確認）	
3-1	アンケート回答の収集……………	9
3-2	授業の見直し……………	10

1-1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説商業編では、生徒や学校の実態、指導の内容に応じて、次のような「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの視点から、授業改善を進めることが重要であると示されている。

「主体的な学び」の視点

- ・ 様々な教科、科目等で身に付けた知識、技術などを生徒自らが活用し、解決策を考案する学習となっているか
- ・ ビジネスに関する理論について、実践・実習などにより確認し妥当性を検討したりしているか
- ・ 身に付けた知識、技術などを基に新たな視点でビジネスを捉えているか

「対話的な学び」の視点

- ・ 専門的な知識、技術などを活用し、妥当性と課題などについて、科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に考察や討論を行い、実際のビジネスについて客観的に理解するようにしているか
- ・ 知識、技術、実際のビジネスに対する理解などを基盤としてビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案しているか。また、提案に対する意見や助言を踏まえてよりよいものとなるようにしているか



「深い学び」の視点

- ・ 商業の見方・考え方を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、商業科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか
- ・ 知識と技術、実際のビジネスに対する理解、企画力や創造力などを基盤として、地域を学びのフィールドとして模擬的なビジネスなどに取り組み、その結果を基に改善を図っているか
- ・ 新たに獲得した資質・能力に基づいた商業の見方・考え方を、次の学習やビジネスにおける課題の発見や解決の場面で働かせているか

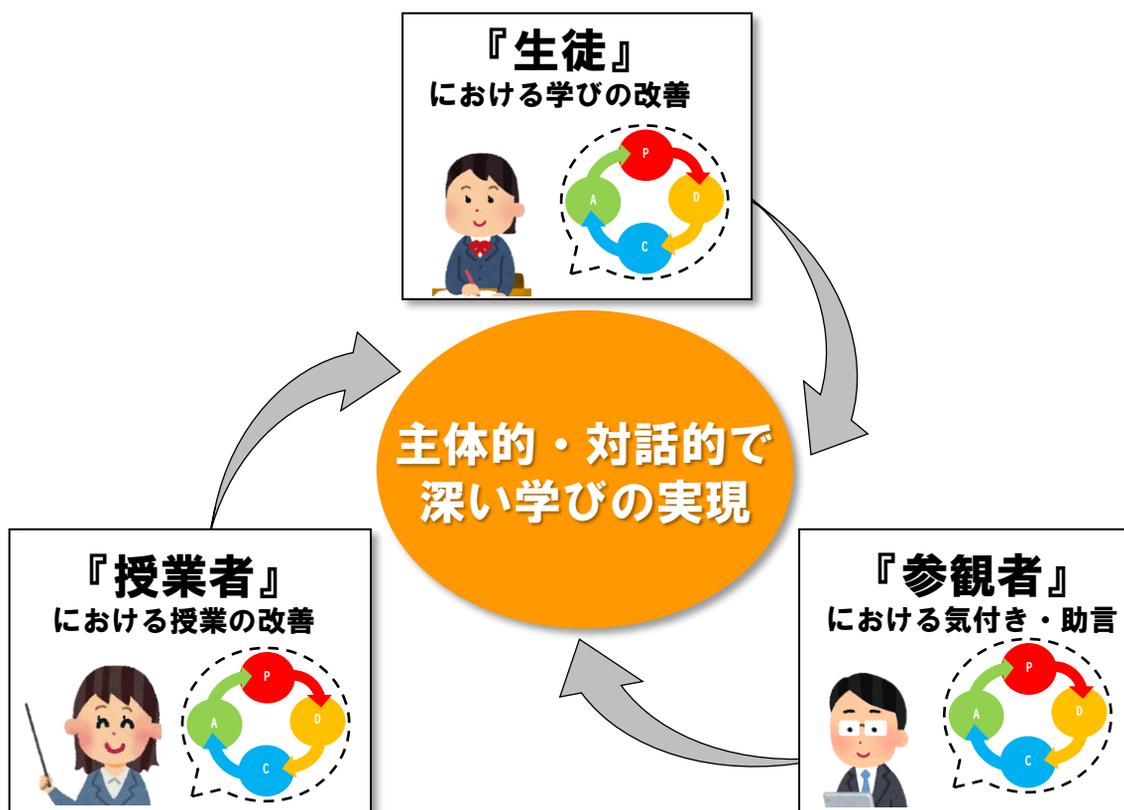
1-2 授業のオープン化から始まる授業改善

授業改善を進める方法には、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業計画や自己の授業の振り返り、また授業のオープン化（教員相互の授業参観等）が挙げられる。授業を公開することで、情報の共有がなされ、参観者の視点からの評価や気づきを通して、自己の授業実践を振り返り、自分では気付くことができない新たな発見になると考えられる。

このような学習活動の質を高める授業改善の取組を一層活性化していくことが必要である。

授業改善を授業者・生徒・参観者の3つの視点から

授業改善に向けた授業者の視点と生徒の視点、参観者の視点の関連を図示すると次のようになる。授業者の授業改善に向けた努力は、それ自体が目的となり生徒の思考から遊離した授業になってしまわないよう留意しなければならない。また、授業でどのような力を身に付けさせようとする意識を教員間で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる必要がある。



授業者・生徒・参観者のそれぞれの立場からの気づきを通して、授業の振り返りを行い、そこから授業分析をすることによって授業改善を目指すため、授業改善につながりやすいと考えられる。

1-3 授業実践の流れ

『主体的・対話的で深い学び』授業計画 (PLAN)

- ① ガイドより、実現したい生徒の姿を選択する (2-1)
- ② ガイドを参考に、教師の具体的な手だてを考える (2-1)
- ③ 授業構成を考える (2-2)
- ④ 生徒用アンケートを作成する (2-3)
- ⑤ 参観者用アンケートを作成する (2-4)

授業実施 (DO)

- ① 授業公開を示す (朝の打ち合わせ等を利用)
- ② 授業を行う
- ③ 生徒がアンケートに回答する
- ④ 参観者がアンケートに回答する

取り組み状況の確認及び評価 (CHECK)

- ① 生徒用アンケート及び参観者用アンケートの評価を確認する (3-1)

見直し (ACTION)

- ① 生徒及び参観者の評価を踏まえて、授業の見直しを行い、次の授業計画 (PLAN)に生かす

2-1 主体的・対話的で深い学びガイド

	実現したい生徒の姿(ピクトグラム)	教師の手だて例
主体的な学び	興味や関心を高める  見通しを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心をかき立てる課題を設定する ・言葉だけでなく、写真や具体物を提示して引きつける ・時事問題や具体的にイメージしやすい題材を用意する ・予想や仮説を立てさせ、単元全体や本時の見通しを持たせる
	自分と結びつける  粘り強く取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で解決方法を考える時間を確保する ・PBL(問題解決型学習)で、生徒自ら課題を発見し、その課題を解決する能力を養う ・課題解決のために多様な情報(資料)を収集・精査する場を設ける ・自己のキャリア形成と関連付ける場を設定し、どのような力を身に付けたいかを考えさせる
	振り返って次へつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の変容を自覚する場を設定し、次の学びに主体的に取り組むよう助言をする ・学習活動を振り返る場面を設け、その意味を考えたり、身に付いた資質や能力を自覚させる ・振り返ることによって生まれた気付きや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるよう助言する
対話的な学び	互いの考えを比較する  思考を表現に置き換える 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な交流を行うための可視化の工夫を行う ・他者の考えとの違いに気付かせ、比較をさせる ・考えの根拠をもって、多様な表現で伝える場を設定する ・Teams会議で他校とディベートを行う場を設定する
	多様な情報を収集する  先哲な考え方を手掛かりとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要となる情報を設定し、方法を検討して情報を収集させる ・収集した情報から推測をしたり、多角的に考察をしたりするなど情報を整理させる ・KJ法やベン図などさまざまな思考ツールやICTを活用し、思考を可視化させた上で、分析したり話し合わせたりする ・先哲の考え方を手掛かりに考えることで、自己の考えを広げ、深めさせる
	共に考えを創り上げる  協働して課題解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士や教職員、地域の人との対話を図る ・考えを統合したり、よりよい考えを創り出させる ・ブックの共有を行い、班別協議を行う場を設定する ・ロイロノートで意見を集約する
	多様な手段で説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生徒同士で説明し合い、学び合う場を設定し、理解の確認及び知識の定着を図る ・相互評価を通じて、自分の学びや課題に気付かせる ・他者の発表を聞き、自己の考えを広げ深めさせる
深い学び	思考して問い続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や多様な考えを関連付けることで、新たな気付きや考えを深めさせる ・考察を基に、次の学びにつながる新たな課題を見いだす場を設定する ・収集した情報を、個人またはグループで、比較、分類、序列化、関連付け、原因や結果に着目するなど、さまざまな方法で分析させる
	知識技術を習得する  知識技術を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の各分野について体系的・系統的に理解させる ・授業のねらいや各科目の特質に応じた思考を可視化する ・各科目の特質に応じた学びの面白さを実感する場を設定する ・学んだ知識・技術を活用したり、新たな疑問を生み出したりする機会をつくる
	自分の思いや考えと結び付ける  自分の考えを形成化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠をもち、その考えを検証したり、最適解を求めたりする場を設定する ・実社会や実生活で活用できる課題を設定する ・自分の学びを自分の言葉でまとめる時間を確保する ・各科目の特質に応じた見方・考え方を働かせる場を設定する
	知識や技能を概念化する  新たなものを創り上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に立ち止まり、解決の方向性を確認する場を設定する ・多様な判断材料を収集・精査して考えを形成する場を設定する ・解決方法を多面的多角的に考える場を設定する ・ビジネスに携わる者として、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う場を設定する

※ピクトグラムは、独立行政法人教職員支援機構により示されたものであり、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づき、学習過程の質的改善によって実現したい生徒の姿を表したものである。

2-2 授業デザインシート

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して授業構成を考える必要がある。その上で、授業デザインシートは、1時間の授業のどの時間帯に主体的・対話的で深い学びを構成するかを考える授業構成のイメージである。授業公開を行い、授業者、生徒、参観者のそれぞれの視点からの気づきを通して、授業の振り返りを行い、授業改善につなげるものとして活用できる。

<授業デザインシート（授業構成のイメージ）>

授業デザインシート —主体的・対話的で深い学びの実現に向けたOneAction—			
【授業前】 授業構成			
日 時	令和 年 月 日 () 第 時限	クラス	年 組 ()
科 目		単元名	
③ 時間帯	前半 ・ 中盤 ・ 後半	分間	開始から終了まで

	② 教師の具体的な手だて（One Action）		① 実現したい生徒の姿
1		⇒	主・対・深
2		⇒	主・対・深

- ① 前頁ガイドより、実現したい生徒の姿を選択する
- ② ガイドの手だてを参考に、上記生徒の姿を実現するための、具体的な手だてを考える
- ③ 実施する時間帯を計画する

<記入例>

	教師の具体的な手だて（One Action）		実現したい生徒の姿
1	① Teams によりブックを共有し協働作業を行わせる ② 班別協議を行わせる	⇒	主・対・深 協働して課題解決することにより、ビジネスに主体的・協働的に取り組む態度を身に付ける
2	① SQL をエラーメッセージから修正させる ② 分散型データベースのデータの整合性を考えさせる	⇒	主・対・深 知識・技術を活用することにより、ビジネスに必要な資質・能力を身に付ける

2-3 生徒用アンケート作成

Teams 課題からアンケートを作成し割り当てる方法

<手順>

- ① 該当クラスのTeamsのタブの中から「課題」を選択する



- ② 作成からクイズを選び、「新しいクイズ」を選択する



- ③ タイトルと質問項目を入力して「完了」を選択する



<タイトル>

- ① アンケート名を入力

<質問項目>

- ② 選択式
③ 長文記述可
④ 2～10段階評価

- ④ 締切日を設定し、「割り当てる」を選択すると投稿欄にアンケートが表示される



<作成例>

授業アンケート「SQLの活用2」

今日の授業を通して、どのような学びがありましたか。各項目について回答してください。
1 (できなかった) 2 (あまりできなかった) 3 (ややできた) 4 (できた)

1. 対話的な学び（協働して課題解決する）となりましたか。*

☹ ☹ ☹ ☹

2. 深い学び（知識・技術を活用する）となりましたか。*

☹ ☹ ☹ ☹

3. 今日の授業を通じて、今後さらに学習しようと思ったことはありますか。
また、今後どのような授業だと興味・関心をもって受けることができますか。

回答を入力してください



2-4 参観者用アンケート作成

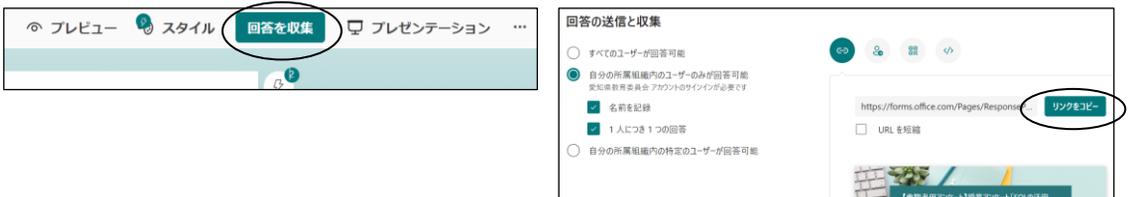
Formsでアンケートを作成しリンク先を添付する方法

<手順>

- ① Formsにサインインし、「新しいクイズ」を選択する



- ② 前頁③同様、タイトルと質問項目を入力する
- ③ 「回答を収集」を選択し、リンクをコピーする



- ④ Teams等にリンクを添付し、授業アンケートに誘導する



<作成例>

【参観者用アンケート】授業アンケート「SQLの活用2」

授業を参観いただき、「主体的・対話的で深い学び」に関するアンケートへのご回答をお願いします。
1 (できていなかった) 2 (あまりできていなかった) 3 (ややできていた) 4 (できていた)

1. 対話的な学び(協働して課題解決する)となっていましたか。*

☆☆☆☆

2. 深い学び(知識・技術を活用する)となっていましたか。*

☆☆☆☆

3. 生徒の様子をご覧いただき、良かった点や改善点があればお書きください。

回答を入力してください



3-1 アンケート回答の収集

<回答の収集方法>

授業アンケートは、生徒や参観者の視点からの気付きを通して、授業者が授業の振り返りを行い、授業改善につなげるものとして活用できる。

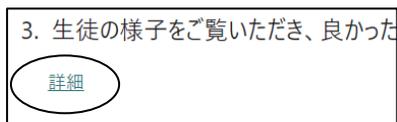
Teamsの課題に投稿した生徒用アンケートの回答は、課題の「結果概要」を選択すると、回答の収集を容易に行うことができる。



参観者用アンケートは、Formsにサインインし、「応答」を選択すると、回答を収集することができる。



個々の回答や記述のアンケート結果を表示したいときは、「詳細」を選択すると、より詳しい回答を収集することができる。

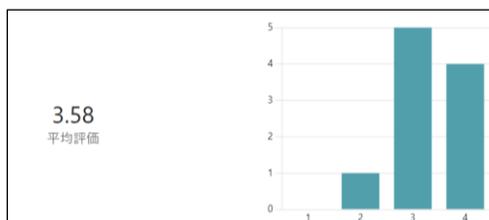


<回答の表示例>

① 質問項目を「選択肢」でアンケートを作成した場合は、円グラフで結果が表示される



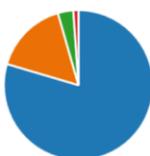
② 質問項目を「評価」でアンケートを作成した場合は、棒グラフで結果が表示される



3-2 授業の見直し

<授業デザインシート（評価結果のイメージ）>

アンケートの回答結果である円グラフや棒グラフなどは、視覚的に一目で把握することができるという利点がある。更に、記述アンケート結果を確認し、授業の良かった点や改善点を考え、次の授業計画に生かすことができる。

【授業後】 振り返り									
<生徒アンケート結果> ※必要に応じて、割合を表示したり、グラフを貼り付けたりする									
1	<table border="0"> <tr> <td>● できた</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>● ややできた</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>● あまりできなかった</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>● できなかった</td> <td>1%</td> </tr> </table> 	● できた	30%	● ややできた	7%	● あまりできなかった	1%	● できなかった	1%
● できた	30%								
● ややできた	7%								
● あまりできなかった	1%								
● できなかった	1%								
2	<table border="0"> <tr> <td>● できた</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>● ややできた</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>● あまりできなかった</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>● できなかった</td> <td>1%</td> </tr> </table> 	● できた	26%	● ややできた	9%	● あまりできなかった	3%	● できなかった	1%
● できた	26%								
● ややできた	9%								
● あまりできなかった	3%								
● できなかった	1%								
その他感想	意見を表示								
<参観者アンケート結果>									
1	(できていなかった) 0 (ややできていなかった) 2 (ややできていた) 2 (できていた) 5								
2	(できていなかった) 0 (ややできていなかった) 2 (ややできていた) 5 (できていた) 2								
改善点等	意見を表示								

授業者・生徒・参観者の気付きを生かして授業改善を進めることにより、学校全体の授業力向上につながると考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現は、バランスある資質・能力の実現につながり、さらには生きる力を育むものとなる。

